

には魅力がないということと、IT産業革命によって激変する国際情勢のなかで日本が取り残されて行くのではないかとの危機感を訴えたかった」ということです。

2月26日に日本プレスセンターで、馬場錬成氏の執筆で日本評論社発行の「スイカの原理を創った男」の出版記念パーティーが盛大に行われました。このパーティーには元特許庁長官の荒井氏をはじめ大学教授、弁護士、弁理士他の錚々たる方々が多数出席されました。



スイカを手に
もって説明する
荒井寿光元
特許庁長官

尚、馬場氏は、東京理科大学理学部出身で、読売新聞社を経て国の機関及び委員会、早稲田大学の客員教授など多方面に活躍され、著書も数多く、単著書はこの本の他に17冊、共著書で14冊があります。



最近の日本では、傑出した技術が出なくなり、製造技術にのみ頼っていた日本の製造業の衰退等が問題となっていますが、その根底にはこの本に記述されているような日本の企業、政府並びに司法の問題があるように思われます。このような時期に松下博士の発明人生について本を執筆して頂いた著者には感謝いたしたいと思えます。



前列左から小関 (M18)、松下(E23)、山田 (W23)、後列左から坂井(C42)、阿部(D41)、平手(Es42)、熊谷(E33)、濟木(D35) [敬称略]

松下昭博士の略歴

- 1948年 旧制名古屋工業専門学校（現－名古屋工業大学）の最後の卒業生となる
- 1950年 東京工業大学に研究者として入る
- 1960年 電気機器絶縁層の処理に関する研究で学位取得
- 1960年 東工大助教授から東光(株)に転身して本格的に電子回路の開発に取り組む
高密度メモリーマトリックスを開発、その後ワイヤトロン演算素子の開発
- 1961年頃 電算機用記憶素子のメモリックスを開発
- 1962年 技術士資格取得－電気部門
- 1963年 年度の日刊工業新聞社10大新製品賞を受賞
- 1966年 東光(株)を退職、千葉工大、東海大工学部で教育と研究に没頭
- 1968年 4月 (株)日本システム研究所を設立、ご夫人の世津子さんが社長となる。
- 1969年 4月 神奈川大学工学部電気工学科の教授となる。テキストに松下昭著の「デジタル情報工学入門－論理演算と設計」（共立出版、1976年）を使用
- 1968年 6月から78年 3月 科学技術庁委嘱の技術士試験委員
- 1969年 5月から72年 4月 新技術開発事業団の国有特許あっせん委員
- 1969年 7月 20日 メモリックスを搭載した米国の月着陸船が月面に着陸
- 1970年から1995年頃 国際電電研究所、関電工、日本電気、富士通、三菱電機等の研究開発のコンサルを行う
- 1980年代 製缶工場の技術指導から非接触伝送装置を発明
- 1985年 6月 「伝送制御装置」として特許出願：「無電源の移動装置」と「電力を供給する固定装置」の間を非接触で情報交信する世界で初めて出願された「非接触伝送装置」、2004年 6月 特許となる。
- 1994年 3月 複合磁気センサの発明とその製品化に関し、あさひ中小企業振興財団と日刊工業新聞社の共催による「第6回中小企業優秀新技術・新製品賞」受賞
- 1994年 11月 上記の件に関し神奈川工業技術大賞を受賞。大学の研究者とその妻の社会活動が一つのモデルとして報道された。



昭和20年10月 名工専校門前にて

学生コーナー

(名工大新聞部提供記事)

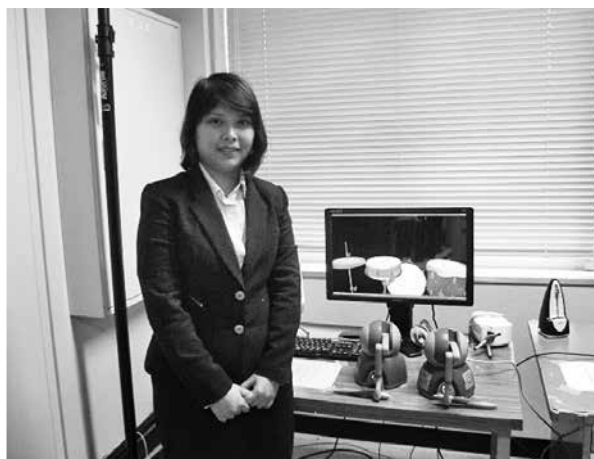
ミヤ シトゥさんがICCA国際会議において最優秀論文賞を受賞

記：安藤 真規（電気電子4年）

石橋研究室に所属しているミヤシトゥさん（創成シミュレーション工学専攻D2）が2月17・18日にミャンマー・ヤンゴンで開催されたICCA国際会議において研究発表を行い、Best Paper Awardを受賞した。

ミヤさんはネットワークを介した触覚インタフェース装置による音楽演奏についての研究を行っており、現在はコンピュータ上のドラムを使用している。通常ネットワークを介したドラムの合同演奏を行うと、ネットワーク遅延により触覚インタフェース装置間の音の同期がとれず、双方の演奏にずれが生じてしまう。これをいかに無くすかというのがミヤさんの研究内容である。

インタフェース装置間の同期をとる方法としてローカルラグ制御という方法をミヤさんは研究している。これはローカルラグという時間を設定し、入力側で入力した音を出力するのをローカルラグの値の分だけ遅らせるという制御方法である。この方法は相手が入力した音の信号が自分の側で出力されるまで自分が入力した音の出力を遅らせているため、ドラムを叩いても音が出るのが遅れ、演奏者に違和感を与えてしまうという欠点もある。ミヤさんはその違和感と同期のずれを両方とも最小限にするための最適なローカルラグ設定について調べ、ローカルラグの最適値はネットワーク遅延にのみ依存することを発見した。これによりミヤさんは平成25年度IEEE名古屋支部学生奨励賞を受賞している。



ミヤ シトゥさん

ミヤさんが今回受賞したBest Paper Awardはこの研究をさらに進め、音が来るまでの時間を予測する時間予測と、前述の最適なローカルラグに基づいてローカルラグを条件によって変更する動的ローカル制御を組み合わせることにより、演奏者の感じる違和感の低減に成功したことに対して贈られた。

今回の受賞に関してミヤさんは「研究室の先輩たちが過去にいろんな賞を受賞していることを知り、自分もいつか賞を貰いたいと思っていた。今回受賞できてとても嬉しいし、これからはがんばろうと思った」と語った。

今後の目標は3人以上での合同演奏や、ドラム以外の楽器での合同演奏を可能にして、最終的には実際の楽器を数種類用いた合同演奏ができるようにすることだそうだ。互いに遠く離れた場所にいる人たちが合奏できる日が来ることも遠くはないのかもしれない。今後のミヤさんの研究に期待していきたい。

和田拓己さん ACMSA2013でBest Paper Awardを受賞

記：北原 知恵（生命・物質4年）

2013年12月21日から23日にかけて中国の昆明で開催された国際会議ACMSA2013において、和田拓己さん（社会M1）がBest Paper Awardを受賞した。ACMSAは毎年開催されているアジアの研究者を対象とした経営工学や経営マネジメントに関する国際学会で、優れた論文に対してBest Paper Awardが贈られる。2013年度は103件の講演論文の中から、和田さんと荒川雅裕教授（都市社会）の共著論文と他2件が選ばれた。

和田さんらの研究のテーマはセル生産に対する生産性向上を目的とする工程設計法の開発だ。新興国での製品の大量生産や消費者ニーズの多様化などにより、近年の日本の生産現場では多品種少量生産の形態をとるところが多く、効率的に製造するためにセル生産方式が導入されている。少人数の作業員で製品生産の全工程を行うセル生産では、1人の作業員が複数の要素作業を担当するため、作業員には高いスキルが求められる。作業員が都度判断しながら多様な製品の生産を行っていく中、複数の要素作業の過程では作業の難度などによって作業時間のばらつきが生じ、生産性の低下につながる。和田さんらは、作業時間のばらつきを考慮し、高い生産性を維持できる工程を設計するため、作業員1人に対する作業の平均時間とばらつきを均等にした作業の割り付け（ラインバランシング）のアルゴリズムの開発と、その評価及び仕



和田拓己さん

掛品配置のシミュレーションを行った。

今回の受賞を経て和田さんは「学部生でも、このような形で今まで頑張ってきたことが評価されたことは単純にうれしかったし、自信にもなった。研究者としてはまだまだ未熟だが、多くのことを学び経験し、いずれ先生と議論になったときに『なるほどね』と言われるぐらいにはなりたい」と話す。研究の今後の展望については「現時点での研究は工程設計の一部のみに係るものなので、今後は作業手順から工場のレイアウトまで総合的な設計法の開発を目指してやっていきたい。将来的に、図面データと作業員数・工場の面積・使用工具のデータを入力するだけで、工場のレイアウトを出せるまでのことができれば」と語った。

研究室の旅「本谷研究室」

記：安藤 真規（電気電子4年）

今回の研究室の旅では本谷秀堅教授（情報）の研究室（以下、本谷研）を紹介する。本谷研は主に医療に関する画像処理について研究しており、大きく分けて2つの研究を行っている。

1つはCTスキャンを行った際に臓器やがんの位置を割り出す研究である。これはCT画像からパソコンを用いて画像の様子から大体の臓

器の位置を判断するというものである。

もう1つの研究はポジトロン断層法（PET）の画像解析についての研究である。PETとは投与された薬がどの部分に留まり、どの様に排出されるのかを調べることができる方法である。PETは薬が体内でどのように移動するかを調べる事で薬の開発に利用する、放射能を

持たせたブドウ糖を注射し、それを外部から観測することでガンの位置を割り出す等の利用法が存在する。PETには計測の際情報信号に雑音混ざってしまうという問題があり、パターン認識という技術を使用することで雑音を消去する研究を本谷研では行っている。

本谷研は外とのつながりが強い研究室であり、東大や名大の附属病院などと提携を行っている。そのため研究には本物の患者のデータを厳しい管理のもと、医者と患者の同意の上で使用している。またアカデミックな側面が強い研究室でもあり、所属する学生は数学や信号処理の分野について学びながら研究を行っている。

本谷研の研究の究極的な目標は「人間の目」を作ることである。私たちは普段の生活で今見ているものが何であるのかを自然に判断しているが、その仕組みについてはまだわかっていない。そのためコンピュータではまだ画像から読み取った形からそれが何であるのかを判断することができない。このように扱いづらい「形」というものについて考えていく分野を作りたいというのが本谷教授の目標だそうだ。



本谷秀堅教授

「名工大は優秀な教員も多く、立地も恵まれている。名工大にいることを生かすも殺すも自分次第なので大学でしかできないことを考えて生活してほしい」と本谷教授は語った。これから始まる新学期に向けてどのような生活をしていくかを考えることは大切であろう。自分の進路なども考える人もいるだろうが、その際にもし興味があれば本谷研を進路の一つとして考えるのも良いのではないだろうか。

ミニSL出張運転 — 鉄道研究会あおなみ線フェスタに出展 —

記：山田 彩加（電気電子4年）

2月6日にあおなみ線潮風車庫にてあおなみ線フェスタが開催され、本学鉄道研究会がミニSLを出張運転した。あおなみ線フェスタは「SLあおなみ号」の走行1周年を記念して開催された市民参加型サミットである。このイベントで鉄道研究会は自身が所有するミニSLを10時30分から14時30分まで無料運行した。このミニSLはライブスチームと呼ばれる実際に石炭を燃焼して蒸気を発生させることにより動く蒸気機関車の模型で、大人3人乗りの常用台車を2台牽引して走る。

当日は天気もよく、屋外にレールを設置して、1周約1分のレール上をミニSLが走った。午前中はミニSLの調子が悪く、バッテリーカーでの運転となったが、試行錯誤の末午後には蒸気機関の圧力が回復し、ライブスチームでの走



行が可能となった。しかしながら、タンクからボイラーに水を送る装置が不調であったため自動で水が送られず、手動で給水を行うために、午前中には1乗車あたり2周だったコースを午後には1周に減らしての走行となった。

1日中長い列ができており、特に午後は乗車時間が短くなってしまったにも拘らず、午前にも増す列ができるほどで来場者のミニSLへの関心の高さがうかがえた。ときには乗車前には泣き声を上げていた男の子も列車が走り出すとたちまち笑顔になるというほほえましい光景も見られ、ミニSLの出張運転は盛況のうちに終わった。鉄道研究会で会長を務める水貝鷹斗さん（電気電子3年）は「今回は乗車される方が非常に多かったため、準備が間に合わずバタバタしてしまいました。しかし、ご来場いただいた方々からミニSLについて色々質問をいただいたりし、われわれとしても楽しく片付け作業が行えました。その際に興味を持ってくれた方にも、次回の走行会の際に列車にご乗車いただ

き、楽しんでいただけたら幸いかなと思います」とあおなみ線フェスタの感想を語った。

今回の走行会は、名古屋市、名古屋臨海高速鉄道株式会社をはじめとする多くの関係者の協力のもと実現した。特にミニSLの復旧に関しては、あおなみ線の工場関係者の助力によることもあったという。今回の出張走行は学内外でうまく手を取りあえたからこそ無事終えることができたのだろう。

鉄道研究会では丸栄の鉄道模型イベントや工大祭など年に1～2回今回のようなミニSLの走行会を行っている。また依頼による出張運転も行っているとのことなので、イベントを開催する際に依頼してみたいかがだろう。

新聞記事コーナー

排水効果4倍の新路盤材を共同研究

(26.4.11.中日新聞・朝刊)

名古屋工業大学は、瓦の破砕物を路盤材に活用してグラウンドの水はけをよくする改修方法を愛知県陶器瓦工業組合（高浜市）と共同で研究した。同組合は、この改修方法を碧南市の沢渡公園グラウンドでモデル的に導入し、4月10日に公開した。同グラウンドの現場では、名工大高度防災工学センターの森河由紀助助教が、地面の深さ38cmまで掘り下げた後、底に2cm以下に破砕した瓦を30cmの厚さで集水管（直径7cm）とともに敷き詰め、その上を透水シートで覆って、土を埋め戻すという改修方法を丁寧に解説した。

名工大などでは直径10cmの円筒形容器でこの改修方法の再現実験を行い、土だけの場合に比べ排水時間が4分の1程度に短縮される効果を得た。

「金の触媒作用」の春田氏が第67回中日文化賞に

(26.5.3.中日新聞・夕刊)

第67回中日文化賞の受賞者に首都大学東京都市環境学部教授春田正毅氏（D45）ら4氏が決まり、贈呈式を5月30日に行う。春田氏は貴金属の価値だけでなく金の可能性に着目、1982年に金が触媒になることを発見した。論文引用数は世界有数で、ノーベル化学賞候補に挙がる。母校の名工大特別招聘教授も務めている。

学内ニュース

NHK大学ロボコン2014で名工大のロボコン工房が優勝!

2014年6月1日 国立オリンピック記念青少年総合センターで行われたNHK大学ロボコン2014で名工大の課外活動「ロボコン工房」が優勝。この大会の優勝により「ロボコン工房」は8月24日インドのプネで開催される「ABUアジア・太平洋ロボットコンテスト」の出場権を獲得。

この大会のもようは7月21日（月・祝）午前10時5分～10時59分にNHK・総合テレビで放送予定。
※「NHK大学ロボコン」は、アジア・太平洋地域の国と地域を代表する大学チームによるロボットの競技会「ABUアジア・太平洋ロボットコンテスト（ABUロボコン）」の、日本代表を選考する大会。この大会で優勝したチームは、日本代表として「ABUロボコン」に参加。
(事務局)



第2回世界的著名研究者講演会を開催



名古屋工業大学は6月11日にノーベル賞有力候補者細野秀雄氏を講師に迎え、第2回世界的著名研究者講演会「透明酸化物の研究から拓けた新領域 一鉄系超電導、エレクトライド、IGZO半導体」を開催した。細野氏は本学にて1982年から1990年まで教鞭をとり、現在は東京工業大学フロンティア研究機構教授。

(事務局)

第37回鳥人間コンテスト出場決定!

2014年7月26-27日に開催する予定の第37回鳥人間コンテスト2014（場所：琵琶湖東岸 滋賀県彦根市松原水泳場）に「人力プロペラ機ディスタンス部門」の距離競技に名古屋工業大学人力飛行機研究会NIEwsが初出場。機体名は鶴舞（ツルマ）。

37回目となる本コンテストは、「滑空機部門」、「人力プロペラ機ディスタンス部門」の飛行距離競技と、一定条件下のもとで達成時間を競う「人力プロペラ機タイムトライアル部門」の3部門で実施。(事務局)



平成26年度 岐阜支部総会報告

名古屋工業会岐阜支部の平成26年度総会及び懇親会を、平成26年5月10日(土)午後5時から岐阜駅前のホテルリソル岐阜に於いて開催しました。岐阜支部は4年毎の幹事制をとっており、今年度は建築学科が担当する3回目の総会になり、少し慣れてきたようです。

例年通り総会前に、支部活性化事業として講演会を行い、今年度も当大学卒業生で大同大学情報学部情報システム学科教授である田中秀和氏(Es48)に依頼しました。田中氏には、『国際的に通用する技術者とは一質保証が求められる技術者資格や技術者教育』と題し、総会前に1時間ほど講演していただきました。具体的には、技術者として日本国のみならず海外でも通用する資格制度と資格取得について、社会に通用する大学教育のあり方など、技術者と教育との関連についてお話していただきました。現在日本国に存在する「技術士」や「建築士」などが海外でも通用する時代になると、グローバルな活躍が

期待できることなど、将来に向けて希望を持てるような講演内容でした。

一旦休憩した後、平成26年度岐阜支部総会を開催しましたが、今年度は名古屋工業大学学長である鶴飼裕之氏にも参加していただきました。最初に山中支部長(A34)より開会挨拶の後、来賓である鶴飼学長に挨拶をしていただき、続いて名古屋工業会常務理事二枚幸夫氏に挨拶をしていただきました。鶴飼学長より学長就任と大学の状況について、二枚常務理事より名古屋工業会の役員変更状況と会費徴収状況・配布予定等についてお話していただきました。その後5議案を上程し、報告・協議を行い、滞りなく議決し、議事を終了しました。

総会終了時に、参加者全員で集合写真を撮影した後、懇親会を行いました。乾杯の音頭は名古屋工業大学卒業生連携室長北村正氏にお願いし、簡単な挨拶もしていただきました。

記：田中 清之(A54)



講演会の様子



鶴飼学長の挨拶



総会終了後の集合写真

平成25年度名古屋支部の“工場見学研修会”開催報告

平成26年3月7日(金)、名古屋支部の平成25年度工場見学研修会を、参加者総数：25名にて開催しました。午前は愛知県武豊町にある中部電力(株)の「メガソーラーたけとよ」と「武豊火力発電所」を見学しました。メガソーラーたけとよは、ナゴヤドーム約3個分という広大な敷地(14万㎡)に約39,000枚の太陽電池パネルを設置し、発電出力：7,500kWという、非常に大規模な施設でした。また火力発電所については、浜岡原発停止の影響を受けて、廃止予定施設であった2号機を短期間で復旧させたという所員の方々のご苦勞を、施設を見学させていただきながら説明頂きました。永崎所長自ら各所を説明頂きましたが、多様な電源のひとつとして太陽光発電を含めた再生可能エネルギー導入拡大を進めつつも、エネルギー安定供給に対しては火力発電所が非常に重要だという現場の生の声をお聞かせいただき、我が国のエネルギー政策に対す

るあり方をあらためて痛感させていただくものでした。

昼食後は、中部国際空港にて「セントレアまるわかりツアー・滑走路見学コース」を開催しました。観光バスに乗ったまま、普段絶対に入ることのできない滑走路を1周するというこのツアーは非常に好評の様子で、これまでに約20万人の方々に参加したそうです。基本的にはバスの中からの見学ですが、一部の場所ではバスから降りて滑走路横の見学スペースにて、飛行機の離着陸を間近で見ることができるといふツアーは非常に好評の様子で、これまでに約20万人の方々に参加したそうです。基本的にはバスの中からの見学ですが、一部の場所ではバスから降りて滑走路横の見学スペースにて、飛行機の離着陸を間近で見ることができるといふツアーは非常に好評の様子で、これまでに約20万人の方々に参加したそうです。基本的にはバスの中からの見学ですが、一部の場所ではバスから降りて滑走路横の見学スペースにて、飛行機の離着陸を間近で見ることができるといふツアーは非常に好評の様子で、これまでに約20万人の方々に参加したそうです。

記：多賀 茂(Y62)



写真1. メガソーラーたけとよ



写真2. 武豊火力発電所



写真3. セントレア滑走路見学



写真4. 懇親会(浩養園にて)

大阪支部 平成26年度「春季歴史探訪の会」開催報告

(近江商人を生んだ水郷の里近江八幡を訪ねて)

好天に恵まれた平成26年4月12日(土)午前10時、総勢28名(内、ご夫婦5組)が、JR「近江八幡」駅に集合。現地のガイドさんと落ち合っ、先ず明治38年に同地の商業学校に英語教師として赴任し、のち建築設計者として全国に1,600を越す建物の設計をしたウィリアム・メレル・ヴォーリズの初期の“コロニアルスタイル”洋風建築群を池田町の通り沿いに観る。その中の築後100年を越える「ウォーターハウス記念館」(国登録有形文化財)に特別入館し、学芸員から説明を受けたが建築系の会員さんは興味深げであった。

続いて、すぐ近くの徳川家康の上洛時の宿舎や朝鮮通信使の休憩所ともなった「本願寺八幡別院」に立ち寄ったあと、伝統的建造物群保存地区第1号となった近江商人発祥の町並みといわれる新町通りに建つ見越しの松が覗く旧西川家(重要文化財)や旧伴家住宅(市重要文化財)の質素ながら堅牢な本宅、土蔵が見事に保存されている様を次々と見て回った。

この町並みをぬけ、ヴォーリズ肝いりの本邦初のメンソレータムの輸入発売元「近江兄弟社本社」前に建つ「ヴォーリズ像」を見ながら「八幡堀」へ。ここは、この地に豊臣秀吉の甥秀次が城下町を開いた際、当時の交通幹線であった琵琶湖を往来する荷船を全て寄港させるため掘削した運河で、今も往時の面影を色濃く残しており、映画やテレビの時代劇のロケ地としても大活躍とか。兩岸の瓦葺き白壁の屋敷が影を落とし、今を盛りと桜が咲き誇る、まるで絵にかいたような景観であった。

ここで昼時となり、近くの船着場から“世界で一番遅い乗り物”と謳う手漕ぎ和船に分乗し琵琶湖の一角に漕ぎ出し、船上で近江牛のすき焼きに舌鼓。兩岸のかたや満開の桜、かたや満開の菜の花の間を縫ってゆらりゆらりの1時間

半の船旅と食を堪能した。

下船後、かつては湖岸の良質の粘土を使って生産されていた八幡瓦を記念して、八幡堀沿いの瓦工場跡に建てられた日本でも珍しい「かわらミュージアム」を参観し瓦の歴史に触れたあと、数あるヴォーリズ建築の中でも1907年に完成したヴォーリズ建築第1号の「アンドリュース館」(国登録有形文化財)にも特別入館、参観させてもらうことが出来た。ここで一度八幡堀を越えて、近江商人の守護神である「日牟禮八幡宮」に参拝し、拝殿前で全員の記念撮影。

参拝後はすぐ隣にあるロープウェイにて、秀次の居城のあった「八幡山」へ。頂上の「八幡山城跡」を巡ると、琵琶湖や湖上で唯一人の住む沖島、湖の対岸の比良の山並みや織田信長の居城のあった安土をも一望のもとに納めることが出来た。同じ山上にある、自害を強いられた秀次の菩提を弔った「村雲御所瑞龍寺」にも参拝。下山の後、八幡宮参道沿いの有名銘菓グループの店で各々和洋のお土産をゲットして帰途についた。

時あたかも桜や菜の花の花盛りの中、手漕ぎ船で湖水を巡り、湖畔の山上からの360度の景観を楽しむなど立体的な探訪行となった一日であった。

記：藤原康宏(E36)



東京支部「第53回 東京ごきそサロン」報告

第53回東京ごきそサロンが、4月16日(水) 18時から東京八重洲ホールで開かれ、出席者は前回とほぼ同数の36名でした。

昨今中国に関する報道や著作には事欠かないが、今回は、自らの経験を通して中国に対する理解を深めようと、引退後2012年と2013年の2度にわたり西安の大学に語学留学した下前 哲夫氏(E41修士卒、元J R東海常務取締役)により、「語学研修を通じて感じた最近の中国事情」について映像や動画を交えた講話が行われた。

【講話内容】

どの国もそれぞれの歴史の延長線上にあり、民族のDNAは社会に反映されているが、それは中国においては、始皇帝以来の中央集権的な政治体制が基本的には変わっていないことや、旧科挙制度が現代教育に大きな影響を与えていること、親族や仲間の相互扶助に重きがあること、コネと付け届けの社会習慣が存続していることなどに現れている。

中国は急速な経済発展を遂げる一方で、貧富の格差が拡大し、官僚の汚職はなくなり、環境汚染が深刻化するなどで国民の不満が高まり、今や社会秩序を維持するための公安安全予算はここ数年国防予算を上回るほどになっている。また、近年の大卒者の大幅な増加やインターネットの普及は中国政府の情報統制を益々難しくしている。

尖閣諸島や南シナ海問題はこれ等の国内事情の文脈上にあるので、日中問題は今後も無くならないと思われる。

一方、西安の人々は個人としては友好的で、学内はもちろん市中においても反日を感じることは無く、日本語を学ぶ人たちとも交流を深めることができた。

講話後の質疑応答においては、主に身近な安全衛生(健康管理方法・交通・暴動・拘摸等)と大学教育についての質問があり、西安の学生生活に集中した。改めて日本との習慣の違いを再認識した。

今までの「東京ごきそサロン」のテーマは、専門技術に関するものであったが、今回初めて同窓生の経験に基づく講話が行われ、内容は分かり易く聴講者全員が講話の冒頭から理解できるものであった。留学生活を通じて肌感覚で得られた「最近の中国事情」は、中国に関心を持つ青年・壮年層にも有意義なテーマと考えるが、平成の卒業生は2名だけで、大変残念だった。

今後は、講話の拡大と青年・壮年層の参加増進に取り組み、「ごきそサロン」を活性化したい。

【特記事項】

今回より名古屋工業会会員は、会費(食事代)が無料になった(非会員は従来通り1,000円)。

会員になって「ごきそサロン」に参加しよう!

記：福間 洋二(M49)



講師



聴講中



質疑応答

名工会東京支部第217回ゴルフ大会報告

第217回大会は、11月13日(水)、大厚木カントリークラブ桜コースにて開催されました。体感温度は冬を思わせる寒さでしたが、澄んだ秋晴れで天候に恵まれました。

18名のエントリーでスタートし、このコースの紹介者である本間様(E18)が寒さのため前半ラウンドで終了されましたが、残る17名は元気に完走されました。参加者の年齢は65歳から91歳までと幅広く、年を取ってもいつまでもゴルフを楽しもうという素晴らしい前向きな姿勢がこの東京支部には脈々と流れています。

ラウンド終了後、本間様も加わり参加者全員で表彰式とパーティが執り行われました。今大会は済木良亮さん(D35)がネット78のスコアで優勝されました。準優勝は同ネットのスコアで竹林義之さん(D39)でした。加えて3位、5位、10位、15位、BB、水平、大波の各賞とニアピン賞が授与されました。

次回の予定は桜の咲く頃、本厚木カントリークラブ(4月1日)での開催を確認し、和やかなうちに表彰式・パーティを終えました。

尚、加藤 規さん(E30)が12月1日に愛知県に転居されることになりました。今後ともご健康でありますようにと祈っています。

実行委員：野澤滋為、赤井憲彦



名工会東京支部第218回ゴルフ大会報告

第218回大会は、4月1日に松下昭様(E23)の紹介で毎年開催されている本厚木CCで満開の桜の下、晴れて風もなく、これ以上ないという状況でのゴルフ大会で22名の会員が心行くまで人生の春も楽しむことができたと思います。昭和23年生まれから大正11年生まれまでの元気な元若者の集まりで、キャディさんが年齢をきいてびっくりしていました。

優勝は花に見とれながらもグロス89で回った河野正武氏(M42)。準優勝は原弘氏(C42)でグロス90でした。更に3位には上記2名より11年先輩の黒田達郎氏(C31)でした。

懇親会では、最年長の小関健二弁護士(M18)から優勝カップ及び各種賞品が授与されました。更に、特別賞として小関先生が卒寿の記念として設けたエージシュートを意味するグロス90の方が今回は3年ぶりに竹林氏(D39)、原氏(C42)の二人となり、記念品を授与されました。



また、最近発行された「スイカの原理を創った男」の松下昭博士の業績についても話題になり、ご本人からも発明人生についての説明があり、5時半ころまで大いに盛り上がりました。



懇親会で松下博士の発明に関する説明を拝聴

次回は6月13日に千葉の佐倉CCで開催することになりました。

記：済木良亮(D35)

第96回名工大ごきそ会報告

第96回名工大ごきそ会は、平成25年11月28日(木)に名門三好カントリー東コースにて、会員17名の参加をえて、開催致しました。当初心配をしていました天候は、曇り時々晴れ若干肌寒さが残る程度で、氷雨だけ避ける事が出来ました。

殆んどの会員の方々はこのコースを知り尽くしておられますが、今回は3桁を叩かれる方が事のほか多くおられて、やはり冬場のコースは特に難しいと改めて感じた次第です。結果は、水谷尚美氏(D42)がグロス105、ネット82で初優勝されました。2位は泉地正章氏(W44)がグロス91、ネット86で、3位は梶原俊彦氏(B45)がグロス89、ネット86で獲得されました。

例会通り懇親会の中で表彰式を行い、優勝されました水谷尚美氏のスピーチで始まり、今回は特に汗闘賞において、初めて同チームから1ホール15、13と大たたきのスコアが飛び出し、その事で益々懇親会が盛り上がり、平成25年最後になります楽しい時間を過ごす事が出来ました。次回は26年3月末に桑名CC開催を予定して散会致しました。

記：柴田 作(A42)



第97回名工大ごきそ会報告

第97回名工大ごきそ会は、平成26年3月27日に名門桑名カントリー倶楽部にて18名の会員の出席をえて、開催を致しました。桑名カントリー倶楽部での開催は、第79回以来であり、4年ぶりの開催でした。心配をしておりました当日の天気については、予報では前日からの雨が残り予想されておりましたが、雨は避けられました代わりに、昼ごろから強風となり、各ホールで四苦八苦される姿がみられました。やはり結果は、二桁が3名のみの高レベルな結果となりました。

優勝は過去4回優勝されているベテランの坂本修造様(A35)が、グロス92、ネット84で獲得されました。2位は2回優勝されている小技のうまい寺西鋼三様(K33)がグロス95ネット85、そして3位は前回優勝者であり、粘り強いゴルフを実践される水谷尚美様(D42)がグロス103、ネット85でそれぞれ獲得されました。

プレー後は、いつもの通り懇親パーティーに入り団欒の中、表彰式を行い、優勝者のスピーチに続き、今回は、特に正真正銘シングルであり常に優勝の常連であります梶原俊彦様(B45)が、珍しくBBを獲得されましたので、あえて苦しい弁明スピーチをさせていただきました。

続いて、今回新しく会に加入されました森井敏彦様(W41)には、楽しい自己紹介を披露していただき、また喜ばしい事に、今まで休会とされておりました故森前代表幹事の御息女であります友松敦子様が今回から復帰されましたので、改めて復帰の挨拶をしていただきました。そして楽しい時間が過ぎる中、次回は6月26日(木)に、愛知カントリー倶楽部で開催する事を確認し、散会とさせていただきました。

記：柴田 作(A42)



平成 26 年 7 月スタート

名古屋工業会 × 徳川美術館

メンバーシップ提携開始!

右下にある「徳川美術館無料入館券」ご呈示で・・・

特典 1

名古屋工業会会員様は徳川美術館への入館が無料!

特典 2

なんと同伴者 1 名様も入館料が無料!

特典 3

「日本料理宝善亭」でのお食事が 10% オフ

特典 4

「ガーデンレストラン徳川園」でのお食事が 10% オフ

※ご利用条件詳細は下記をご覧ください。



名古屋工業会の皆様だけへの特典満載!

学生証を呈示するだけで徳川美術館に何度でも無料で入館していただける「大学メンバーシップ」制度。在校生の皆様大変ご好評いただいている本制度がこの度、名古屋工業会に所属する卒業生の皆様にも継続してご利用いただけることとなりました。

さらに皆様のライフスタイルに合わせ、学生会員よりも特典がパワーアップ。美術館鑑賞のみならず、徳川園内での食事もお得にお楽しみいただける、特典満載の内容となっております。同伴 1 名様も無料となりますので、ぜひ大切なご家族やお友達をお誘いいただき、徳川美術館での上質な時間をお楽しみください。

名古屋工業会の皆様のご来館を心よりお待ちしております。

【徳川美術館無料入館券】ご利用のご案内

- 名工委会員様のみご利用いただけます。譲渡・換金不可。
- 右下にある「徳川美術館無料入館券」のご呈示が無い場合は、いかなる特典も受けることができません。
- 「徳川美術館無料入館券」は有効期間中繰り返しご利用いただけます。

【徳川美術館】

・無料入館券の呈示でご本人様 + 同伴 1 名様入館無料。

【日本料理 宝善亭】

- ・会計時に無料入館券の呈示でお食事代より 10% オフ。
- ・会員様のみ割引適用のため、まとめてお支払いください。

【ガーデンレストラン徳川園】

- ・予約時に名工委会員であることを申告、来店時に無料入館券の呈示でお食事代より 10% オフ (要予約)。
- ・個別会計でもグループ内割引適用可。
- ・20 名以下の場合のみ適用。
- ・貸切営業での割引適用不可。
- ・蘇山荘 (カフェ & バー) は割引適用不可。

観覧のご案内

- 開館時間 午前 10:00 ~ 午後 5:00 (入館は午後 4:30 まで)
※8月8日(金)~10日(日) 午後 7 時まで開館
- 休館日 月曜日 (祝日の場合は翌日)
- 観覧料 一般 ¥1,200 高大生 ¥700 小中生 ¥500
※土曜日は小中高生無料
※名工委会員様は右下のチケットの提示でご本人様と同伴 1 名様まで無料

交通のご案内

- 自家用車 出来町通りを大曾根方面へ。徳川美術館南交差点を北へ曲がってすぐ (無料駐車場あり)
- 鉄道 JR 中央線「大曾根」南口より徒歩 10 分
地下鉄名城線「大曾根」より徒歩 15 分
- バス 市バス基幹 2 系統 / 名鉄バス「三軒家」ゆき「徳川園新出来」下車徒歩 3 分

展覧会のご案内



ケータイ美術

—もちあるく道具のかたちと機能—
5月31日(土)~7月21日(月祝)

天下統一 —信長から家康へ—

7月26日(土)~9月28日(日)

キリトリ

名古屋工業会

徳川美術館無料入館券

<有効期限 H26.7.1(火)~9.15(月祝)>

- 徳川美術館にて御本人様 + 同伴 1 名様無料
 - 宝善亭にてお食事 10% オフ
 - ガーデンレストラン徳川園にてお食事 10% オフ
- ※ご利用条件は本誌の「ご利用のご案内」でご確認ください。
※譲渡・換金不可。

〒461-0023 名古屋市中区徳川町 1017 TEL / 052-935-6262
10:00 ~ 17:00 (入館は 16:30 まで) 月曜休館 大曾根駅徒歩 10 分



ご利用方法・アクセスなどお気軽にお問い合わせください

TEL / 052-935-6262 E-mail / kikaku@tokugawa.or.jp

〒461-0023 名古屋市中区徳川町 1017 http://www.topkugawa-art-museum.or.jp

60名のデンソー等企業出身者が御社の課題を解決します!

技術支援

メカから電気・電子、半導体まで
開発設計、品質、生産技術、生産まで

研修・講演

技術系全25講座—材料、加工、設計、電気・電子、
組込コンピュータ、各種要素技術…
品質系全30講座—DRBFM、なぜなぜ分析など
各種未然防止手法
マネジメント系全10講座—経営品質、もしドラーダシッパ、
プロジェクト管理…

WORLDTECH

株式会社ワールドテック

代表取締役 寺倉修 (F50)

〒458-0901 名古屋市中区錦2-15-22りそな名古屋ビル7F

FAX: 052-219-6026

TEL: 052-219-6025

E-mail: solution@worldtech.co.jp

特許業務法人
英知国際特許事務所
EICHI Patent & Trademark Corp.

所長 弁理士 岩崎 孝治

— 知財の総合コンサルタント —

- 【東京本部】〒112-0011 東京都文京区千石4-45-13
TEL: 03-3946-0531(代) FAX: 03-3946-4340
- 【神奈川支部】〒224-0006 横浜市都筑区荏田東1-23-2
TEL: 045-532-3827 FAX: 045-532-3828
- 【浜松支部】〒430-0806 浜松市中区木戸町3-18
TEL: 053-461-5662
- 【山形支部】〒994-0026 山形県天童市東本町1-2-20
TEL & FAX: 023-651-6102
- 【大阪支部】〒593-8324 堺市西区鳳東町2-198
TEL: 072-201-1593 FAX: 072-201-1596
- 【仙台支部】〒993-8324 仙台市青葉区米ヶ袋1-2-6-402
TEL: 022-266-5580
<http://www.eichi-patent.jp>

一般社団法人名古屋工業会会誌 「ごきそ」に広告を掲載しませんか

「ごきそ」は15,000部を隔月発行し、
会員・広告主・関係官庁・各学会・大
学・図書館等に頒布されています。

詳細は名古屋工業会のホームページ

<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>

でご確認ください。

企画から製本まで承ります。

企画・デザインから製本まで
トータルサポートでお値打ち!!

デザイン

名刺・ハガキ・封筒・チラシ・カタログ・
パンフレット・ポスター・定期刊行物
etc.
タイプ・電子組版時代から築き上げら
れたノウハウはDTPにおいて、特に
不得意とされる縦組みの書籍・表組み
の異物も得意分野です。

印刷

カラー印刷・2色刷り・1色刷り・特色
刷り・品質・部数・ご予算に応じて提供
いたします。
Macintoshのみならず、ワード・太
郎等の通常オフセット印刷に適さな
いWindowsデータの出力ノウハウも
ありますのでご相談ください。

製本

目次・体裁・語彙・併句・小説・エッセイ・雑誌・絵本等、自分の本を作りた
いとお考えの方。
各種マニュアル・広報・配布文書・名簿・
クラブ・サークル誌・宣伝物等、製本で
お困りの学生・法人の方、少ロットよ
りお手伝いします。

総合印刷の
栄光社
有限会社

〒466-0014 名古屋市中区東郷町一丁目42番地
TEL (052) 741-7701
FAX (052) 741-7703
URL <http://www2.ocn.ne.jp/eik/>
E-mail eikou@theta.ocn.ne.jp

(株)ブライダルは 名古屋工業大会員の皆様の 「結婚」を応援します。

36年の実績
(一橋大コースetc)



左のQRコードにて携帯サイトに
簡単にアクセスできます。
(一部対応しない機種がございます。)

名古屋工業大コース

これをご覧になったとおっしゃってくだされば

登録料 **50% OFF**

ブライダルコース ¥226,800 ▶ ¥210,600 etc.

エクセレントコース ¥388,800 ▶ ¥372,600 etc.

価格は登録料・会員サポート費・月会費(12回分)の税込総額です。

- 成婚率は業界トップクラス。
- 入会審査有り。
- 都庁・官公庁・有名大学などでメディア展開。
- お客様満足度NO.1のお世話を目指し少子化問題にも貢献。

株式会社 **ブライダル** お問い合わせ (月曜定休) ☎0120-415-412
<http://www.bridal-vip.co.jp>
名古屋本社 〒460-0008 名古屋市中区栄3-7-13 コスモ栄ビル9F
Network 東京・横浜・湘南・浜松・豊橋・名古屋・岐阜・大阪

広報委員会

委員長 森川 民雄 (W45)

- | | |
|-------------|-------------|
| 上原 匠 (C60) | 山盛 康 (SC③) |
| 北川 啓介 (A⑧) | 浅野 健 (SU⑥) |
| 藤井 郁也 (Mb③) | 安楽 崇宏 (M⑧) |
| 関 健太 (EP⑫) | 廣瀬 光利 (E50) |
| 杉本 英樹 (ZW⑥) | 吉木 満 (W56) |
| 吉野 明広 (G53) | 高取 奨 (D⑥) |
| 本多 沢雄 (ZY⑥) | 道家 清正 (Y30) |
| 米谷 昭彦 (F60) | 宮地 義彦 (K50) |
| 横山 淳一 (Fb⑥) | 守田 賢一 (F47) |
| | 澤村 泰政 |